ふれあい福祉コーナー

尊い命、大切にしよう！

9月10日(水)～16日(火)は自殺予防週間です

毎年多くの方が自殺によって尊い命を失っています

日本では平成10年に年間の自殺者が3万人を超え、その後も多くの方が自殺によって尊い命を失っています。世代別では、将来ある子どもの自殺や20から30歳代ではインターネット自殺が問題となっており、中高年では、特に男性において自殺急増の主要因となっています。また、高齢者の自殺死亡率が高く、今後、高齢者が高齢者を介護する老々介護による介護・看護疲れ等が課題となっています。

自殺は追い込まれた末の死

自殺は個人の自由な意思によるものと思われがちですが、多くの場合、失業、多重債務等の経済・生活問題、病気の悩み等の健康問題、介護・看護疲れ等の家庭問題などの様々な要因で心理的に追い詰められた結果、うつ病等の精神疾患を発症し、これらの精神疾患の影響により正常な判断を行うことができない状態となっていることが明らかになってきました。

自殺は防ぐことができます

自殺の背景・原因となる様々な要因のうち、失業、多重債務、長時間労働等の社会的要因については、制度等の見直しや相談・支援体制の整備といった社会的な取り組みによって、健康問題や家庭問題等については、専門家への相談やうつ病等の治療について社会的な支援により自殺を防ぐことが可能と言われています。

自殺を考えている人は悩みを抱え込みながらもサインを発しています

自殺を図った人が精神科等の専門家に相談している例は少ないと言われています。また、死にたいと考えている人も、心の中では「生きたい」という気持ちとの中間で揺れ動いており、不眠や原因不明の体調不良など自殺の危険を示すサインを発しています。家族や職場の同僚など身近な人は、自殺のサインに気づいていることも多く、こうした「気づき」を自殺予防につなげていくことが重要です。

自殺のサイン（自殺予防の10箇条）

1. うつ病の症状に気をつけよう（気分が沈む、自分を責める、仕事の能率が落ちる、決断できない、不眠が続く）
2. 原因不明の身体の不調が長引く
3. 酒量が増す
4. 安全や健康が保てない
5. 仕事の負担が急に増える、大きな失敗をする、職を失う
6. 職場や家庭でサポートが得られない
7. 本人にとって価値あるもの（職、地位、家族、財産）を失う
8. 重症の身体の病気にかかる
9. 自殺を口にする
10. 自殺未遂におよぶ

【相談窓口】

障害福祉課　☎㈹428
健康増進課　☎995・3381
埼玉県立精神保健福祉センター
平日　午前9時～午後5時（予約制）
☎048・723・6811

【電話相談】

埼玉県こころの電話　平日　午前9時～午後5時　☎048・723・1447
埼玉いのちの電話　24時間365日相談可　☎048・645・4343
問障害福祉課☎㈹428

いきいきやしお写真館

厳しい訓練の成果を披露

8月3日、八條小学校グラウンドで「八潮市消防団夏季訓練」が実施されました。

訓練には、消防団員199人が参加し、服装点検とポンプ操法競技大会が行われ、日ごろ行っている厳しい訓練の成果を披露しました。競技の結果は次のとおりです。

小型積載車の部	優　勝	第1分団第3部
	準優勝	第1分団第5部
自動車ポンプの部	優　勝	第3分団第3部
	準優勝	第2分団第6部

教団の撤去・解散を求めて抗議

8月16日、八潮市オウム真理教対策協議会（会長＝吉田準一市議会議長）で、教団の早期退去を求める抗議行動を行いました。当日は、協議会関係者を始め、市民約200人が参加されました。

オウム真理教団（現アレフ）の拠点施設である大瀬施設では、在家信者を中心としたセミナーが開催されて教団の活動が活発化している状況から抗議行動を行ったものです。

教団施設前では、オウム真理教反対のシュプレヒコールを行い、教団の撤去および解散を求める要請書を教団側へ手渡しました。

幼児と小学生が交流！夏まつり

8月29日、だいばら児童館（わんぱる）で「夏まつり」が開催されました。幼児と小学生が交流して楽しい1日を過ごしてもらうことを目的に行われ、約200人の参加者で賑わいました。夏まつりは、46人の小学生の実行委員が、7日間にわたって品物作りなどの準備を行い、当日は、ジュニアリーダーのお手伝いもいただきながらおもちゃ屋・金魚すくいなどのお店を開きました。このほか、バルーンアートやゲームなどを楽しみました。「品物がたくさん売れてうれしかった」「今度は、春まつりや冬まつりができればいいな」などと感想が聞かれました。

やしお市民大学学生企画の講座

8月23日㈯、八潮メセナ集会室でやしお市民大学（学長＝多田重美市長）主催の学生企画公開講座が開催され、約100人の方が参加されました。

今年の講座のテーマは、北海道洞爺湖サミットが7月に開催されたことから、「地球温暖化問題」とし、講師には、やしお市民大学大学院の環境領域のクラスでご教授いただいている筑波大学大学院生命環境科学研究科准教授の田村憲司さんをお招きしました。

講演では、私たち一人ひとりが環境を意識し、世界に先駆け日本が率先してCO_2削減対策に取り組む必要があることを熱く語られました。